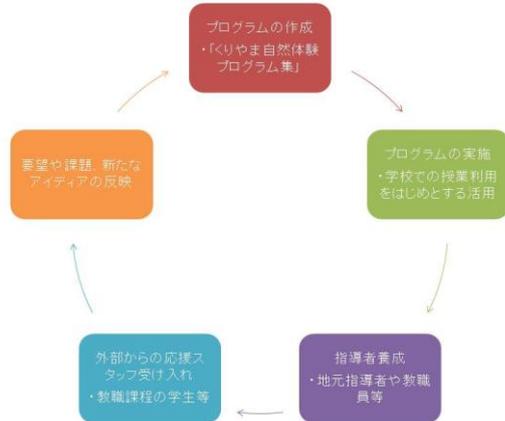


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

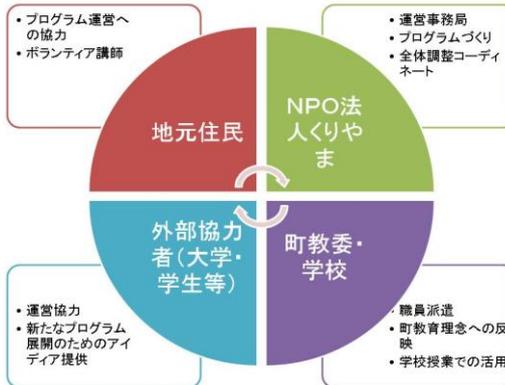
分類	計画策定と実行プロセス
手法名	学校等教育機関と連携した里地里山活動プログラム作りと運用
主体	特定非営利活動法人くりやま
背景(地域の課題)	里地里山の取り組みを地域だけでなく、学校や外部者が連携し活用していくためには、分かりやすく系統立てたプログラム整備が必要とされる。
手法／方策の詳細	<p>(1)学校教育と関連性を保つプログラム集の作成 これまで地域で取り組んできた里地里山活動を、学校行事や授業など学校教育において利用できるよう、教科教育との関連性についても記載し、整理。プログラム集に合わせ教員用の指導者手引きも作成されており、教員がカリキュラム活用上参照しやすい内容構成となっている(図1・2)。</p> <p>(2)プログラムの内容詳細 プログラムのねらいが類型化され、教育目的ごとに整理されている。下記等がある。</p> <p>①里山の暮らしを学び楽しむ ②里山の田畑で感じる ③ハサンベツの里山をつくろう ④生き物の生態を知る－バードウォッチング、植物観察、昆虫観察、両性・哺乳類観察、水辺の生き物の観察－ ⑤夜の森にゆく ⑥冬を楽しむ</p> <p>複数のプログラムをつないだパッケージプランも整備されている。また運用にあたっては、各学校の授業目的や行事(遠足等)に合わせて柔軟に対応できるよう、様々なプログラム組み合わせが可能となっている。また、事前の打ち合わせや活動後のフォローまで視野に入れた位置づけがなされている。</p> <p>(3)プログラム運用にあたって留意点 プログラムを行うにあたって、次の3点に力を入れることで、活動の安全性や確実性、充実化を図っている。安全性確保、指導者養成、地域の様々な協力者との連携協働。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)学校との連携を可能にする具体的なプログラム作りと発信 里地里山の体験活動を学校教育で活用できるように、プログラム集にあらかじめ教員が授業等で必要とする情報を入れ込む等の工夫や配慮が凝らされており、学校の体験学習の誘致を図ることに効果を上げている。</p> <p>(2)多様な主体と連携したプログラム運用で安全性、確実性、発展性を実現 地域の指導者や大学生等の研修プログラムの提供を行うと共に、行政や地域との連携も構築することで、プログラムの安全性や確実性を向上させている。また、多様な人々がプログラムの実施に参画することを通じて、活動の新たな展開をもたらす等の発展性を生み出している。</p>

実行プロセス・運営体制のイメージ

プログラムの運営プロセス



プログラム運営を支える多様な主体の連携



図・写真資料

図1

自然体験プログラム
夕張川で遊ぶ

E ボート遊び
基本料金：20名 35,000円
参加人数によって料金が変動します。お見積りにご相談下さい。

E-ボート（双胴式ゴムボート）などに乗り夕張川を下ります。普段とは違った目線から川を見ることで、川の持つ自然環境を直接感じることが出来ます。

● 体験プログラム実施期間：6月～9月
● プログラム実施時間帯：9時～15時
● プログラム所要時間：2時間～3時間
● フィールド：夕張川
● 定員：20名

◆ 注意事項
● 乾きの早い化繊素材のものが選んでいます。ジーンズは濡れると重くなり動きを妨げるため履きとしては選んでいません。
● 天候や川の増水などによっては、安全確保のためプログラムを中止する場合がありますのでご了承下さい。

◆ 参加者の用意する物
● 濡れた時の替ええ（一式）・濡れてもよい靴（スニーカーなど）・帽子
● タオル・バスタオル・メガネをかけている方は、眼鏡ストラップ

図2

ふるさと自然体験教育 参考資料

時期 6～9月
時間 135分
場所 夕張川、阿野呂川

E ボート遊び体験

対象 小学5年生～
関連 理科・社会
教科 総合的な学習

● ねがうところ（指導目標）
① 地域の自然環境について興味・関心を持つ。
② 地域の地理的環境がわかる。
③ 最後まで努力してやり遂げる。
④ 五感を働かし、互いに助け合う。
⑤ こんなことができるように（つなげたい力）
⑥ パドルを握り、ボートを操作することができる。
⑦ 川で活動する楽しさと危険性がわかる。
⑧ 川の成り立ちと人間との関わりがわかる。

● 準備するもの
【道具・学校】
 用具 替ええ タオル類
 運動靴 テント（着替え用）
 眼鏡ストラップ 水筒 帽子
【指導者】
 ボート ライフジャケット
 パドル 川の学習資料

● 活動の流れ（例）

段階	時間	活動内容	留意点・備考
導入	10分	○ 整列（グループごと）・【初めのあいさつ】 ○ 指導者の紹介 ○ 行動日程・内容説明（概要） ○ ボートの配属 ○ 安全管理（危険行動等の注意・対処方法説明、服装の注意等）	○ 安全を第一に考えた場所の決定とする。
準備	10分	○ 川の状況説明（流れの強さ・水温・天候・深さなど）を聞く。 ○ 川で活動する楽しさと危険性を具体的に聞く。	
感性		○ 水の冷たさ・水の色など・野鳥のさえずりなどを五感で感じる。 ○ 水面上から見たい川・河原林など、景色の変化を感じる。 ○ 指導者や仲間とコミュニケーションを取りながら活動する。	○ 各ボートに最低2名の大人を配置する。 ○ スカウト・ゴール地点に待機する大人も配置し、万が一に備える。 ○ 子どもの行動を見る。（危険行動をチェック） ○ 子どもの体調を見る。
アクション（実体験）	80分	【決められた配属にしたがい、グループごとに活動】 ● ゴムボートに空気を入れる。 ● ライフジャケットの安全な着用方法を聞き着る。 ● パドルの握り方、使い方（漕ぎ方）を聞く。 ○ 同じボートの指導者とあいさつし、準備をする。 ○ 指導者に促されボートに乗り、川下りを体験する。 ● 安全なコースを流れるように協力してボートをコントロールし、ゴールを目指す。 ● 早くゴールを目指すのではなく、四季折々の景色や鳥のさえずりなど、川から見た自然を楽しむ。 ○ ゴール後、ボートやライフジャケットの後片付けを行う。	
シェアリング	35分	【グループ活動によるまとめ】 ○ 夕張川の印象の変化、出会ったいきものなど、グループごとに感想をまとめ、発表する。 【指導者によるまとめ】 ○ 川の流れや瀬や淵など、川の成り立ちがわかる。 ○ 川と森、人間生活との関係がわかる。 ○ 川で活動する楽しさと危険性がわかる。 【終わりのあいさつ】	

● 評価のめやす

項目	参考ポイント
知識の習得	川の成り立ち、川と人間生活との関係、川で活動する危険性
意欲の高まり	指導者の説明を理解する姿勢、安全に配慮した行動、仲間との協調性、意欲的な行動

参考資料

里なび研修会in北海道パワーポイント資料(諸橋淳氏)